顔、腕、会話ですぐに119番！脳卒中は家族が「FAST」で対応しよう！

ドクターズコンテンツシリーズ＃32

iTICKET

はじめに

脳の血管が詰まったり、破れたりして起こる脳卒中。日本国内ではがん、心臓病に続く死因の第3位となっています。そんな恐ろしい脳卒中ですが、医療の進歩により早期治療を行えば劇的な回復が期待できるようになってきました。脳卒中で命を落とさない、後遺症を残さないためには、いち早く救急車を呼ぶことが大切です。

Doctor

いのうえ内科
脳神経クリニック

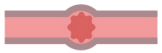
井上（いのうえ） 健（けん） 先生

初期治療を受ければ劇的な回復が期待できる

脳の血管が詰まったり、破れたりすると数分後には脳細胞が壊死し始め、時間が経つほどダメージが広がります。つまり、治療を受け始めるまでの時間が長いほど後遺症のリスクが高まるのです。その反面、症状によりますが、**発症から3～6時間以内に初期治療を受ければ劇的な回復が期待できる**という報告もあります。

脳卒中には二つのタイプがある

血管が詰まる



脳梗塞…脳の血管が詰まる、血のめぐりが低下するなどの状態が続き、その先の脳組織が死んでしまう病気です。脳卒中のなかで最も多く、脳卒中の約7割を占めています。

脳梗塞は発症から3時間以内の治療がカギ

2015年時点で最も有効とされているt-PAという治療法は発症から4.5時間以内までしか使えないという使用制限があります。この治療を受けるためには医師の診断と検査が必要となるため、どんなに遅くとも発症から3時間以内には病院に到着していなければなりません。また、発症時刻が把握できているかどうかも重要なポイントとなります。

血管が破れる

- 脳出血…弾力性がなくなり、コブ状にふくらんだ血管の部分が高い血圧に耐えきれなくなり、血管が破れると脳出血が起こります。
- くも膜下出血…原因は明らかになっていませんが、生まれつき脳の血管の弱い部分があり、その部分がコブのように膨らみ続けた結果、血管が破裂してしまうという説が有力です。

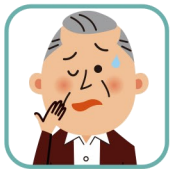
くも膜下出血は一刻も早い手術が必要

処置が遅れると、一度破れた血管が再び破裂する危険があり、この再破裂により多くの方が亡くなっています。そのため、一刻も早く手術をして再破裂を防がなければなりません。

FAST の標語を覚えよう

FASTは四つのキーワードの頭文字を組み合わせた言葉です。Face（顔の麻痺）とArm（腕の麻痺）とSpeach（言葉の障害）の三つの症状のうち、どれか一つでも症状があったら、Time（発症時刻）を確認して、**一刻も早く救急車を呼びましょう。**

F 顔（Face）



顔の片側半分が動かなくなって口元が下がる。ゆがみがある。

★チェック！
うまく笑顔が作れますか？

A 腕（Arm）

体の片側の手足が動かない。力が入らない。

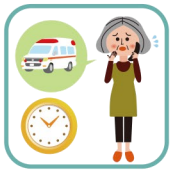
★チェック！
両腕を上げたままキープできますか？

S 会話（Speech）

言葉が出てこない。ろれつが回らない。

★チェック！
舌を使う「らりるれろ」と、唇を使う「ぱぴぷぺぽ」が言えますか？

T 時刻（Time）



症状に気付いたら発症時刻を記録して救急車を呼ぶ。

★チェック！
いつ発症しましたか？救急隊員に発症時刻を伝えましょう。

この他にも…

ドクターからの健康アドバイス「ドクターズコンテンツ」サイトでは様々な症例をご紹介しています。

- 家族や身のまわりの人を FAST で守ろう
- 客観的な目で異変に気付こう
- 家族みんなで脳卒中を防ぐ生活をしようなど掲載中！

アイチケット広場

パソコン　スマホ　ケータイから

http://park.paa.jp/

© M3 Solutions, inc.